

新任教職あいさつ

「蒔き、刈り、そして耕す」



伊藤 節彦
広島・松山教会に
着任致し
ました伊藤 節彦

「恵みの業をたらす種を蒔け、愛の実りを刈り入れよ。新しい土地を耕せ。主を求めるときが来た(ホセア10・12)」。

「主を崇め、主を誇り」

岡村博雅



2013年2月21日は私にとつて、喜びの日となりました。小田原教会と湯河原教会の牧師として辞令をいただきました。主イエスと共に、主を崇めながら、主を誇りながら、主の後につく信仰の歩みを進めて行きます。



この春より、本教会より辞令を賜り、永吉種富

「主の霊によつて」

「主の霊によつて」

「主の霊によつて」

全信徒祭司性の精神に基づいた全員参加型の宣教活動を展開していきたいと願っています。キリストというただお一人の方を中心とした教会形成 One for All for One をモットーに牧師としての一歩

トワールドサビレ部 理事会報告

世界宣教主事 浅野直樹

LWF(世界ルーテル連盟)は、世界のルーテル教会をつなぐという大きな働きをしており、その中のひとつワールドサビスは、直接には教会の働きではありませんが、海外発展途上国のコミュニティ作りや開発支援活動を担っていて、毎年大きな予算で活動して

います。LWFには三つの部局があり、理事はそのうちのどこかに所属し企画の意思決定をすることになっていきます。私はワールドサビスの理事を兼ねていて、今回、ミャンマーのヤンゴンで開催された理事会に参加しました。

理事が企画の意思決定を担うといっても、普通の素人の私にはじゅうぶんな責任を果たせるわけでもなく、実際にはプロ

とを心から楽しみにしています。私はルーテル教会に転籍してからまだ日も浅く、不慎れな事、不十分な事がたくさんあります。色々と失敗することと思

います。その節はどうぞご容赦ください。また、どうぞご指導くださいますようお願いいたします。学びながら、祈りながら励んでまいります。

「主の霊によつて」

「主の霊によつて」

この春より、本教会より辞令を賜り、永吉種富



牧師と
いう未来
を最初に
思い描い

「用いてください」

宮川幸祐

「用いてください」

ジェクトの専任スタッフが計画実行しています。門外漢の理事たちは、外部から監視することに徹します。

現地視察はけっこう大変です。私はワールドサビスの理事を兼ねていて、今回、ミャンマーのヤンゴンで開催された理事会に参加しました。

程度がやると乗れるボートが私たちを待っています。座席はないので、各人が頭と足を交互にして船の胴体に仰向けに

なつて寝る。視線はほぼ水面の高さ。船全体が目の位置まで潜っているのに気がきます。「大丈夫、ライフジャケットがあるから。そう言われても全然安心できないまま一時間、船旅を終えて陸に上がると村人たちが出迎えてくれて、LWFが建設した公民館へ私たちを案内してくれました。公民館といってもコンクリートで囲っただけの寄合所ですが、電気も水道もないジャングルの中で

てからおよそ十年、その働きに実際に召された今、喜びも不安も一杯です。久留米、大牟田、田丸の三つの教会での働きが与えられました。自分の小ささ・弱さを見つけたならば恐ろしさが募るばかりです。しかし、その私を神様が用いてくださる。ただそれを信じます。九州の地に、そしてまた、ルーテル教会全体に元気を満たしてゆく、そうした神様の働きに仕えてゆければと願っています。

祈る者として、そしてまた祈られる者として、皆様と共に歩んでいければと思いますので、どうぞよろしくおねがいします。

「用いてください」

「用いてください」

は、村人が一同に集まって話し合えるただ一つの場所。それでもここでの話し合いから、やがてコミュニティが生まれるのです。屋根付きコンクリート空間があるといふことは確かに大違いということに気が付かれました。アフリカのどこそこ何百万ドル投入し難民支援というの、確かにワールドサビスの中心事業ですが、こうした草の根の働きも支援活動として見逃せません。

「用いてください」

JLER(ルーテル教会救援) 対策本部 現地からのレポート

でも嬉しかったと涙を流しながら言われています。3月2日、3日には、多くの方々に立派に出来上がった「つるしびな」を見て頂こうと、ビックバンと言った大きな会場で展示会を開催しました。そして、展示会翌日、完成しました「つるしびな」を各集会所に飾りました。この「つるしびな」は、一針一針思いがこもった「つるしびな」だと思います。「つるしびな」を皆さんと共に作ったことが大きな絆となりました。仮設団地の方々の心がこの「つるしびな」によって、少しでも癒されますようお祈りしています。

震災によって引き裂かれた被災地の方々の絆の再生を目標に、震災二年にあたる今年3月11日完成を目指して進めてきた「つるしびな」プロジェクトも、予定通り終了しました。今月号では、このプロジェクトでの中心的役割を果たしました地元ボランティア団体代表の方から感謝と喜びの声をいただきましたのでご紹介いたします。(このプロジェクトは、地元石巻日日新聞、石巻市社会福祉協議会機関紙等で紹介されました。)

また、「となりびと」にも「つるしびな」を二組いただきましたので、今後、全国の巡回展示会等も予定していますのでご期待ください。

「つるしびな」を二組いただきましたので、今後、全国の巡回展示会等も予定していますのでご期待ください。

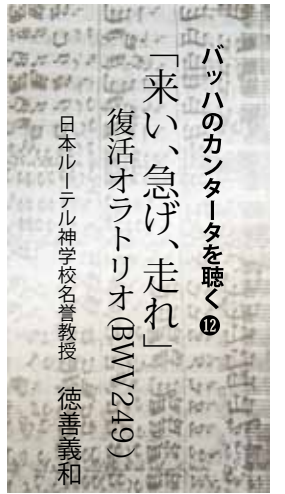
「つるしびな」を二組いただきましたので、今後、全国の巡回展示会等も予定していますのでご期待ください。

「つるしびな」を二組いただきましたので、今後、全国の巡回展示会等も予定していますのでご期待ください。

「つるしびな」を二組いただきましたので、今後、全国の巡回展示会等も予定していますのでご期待ください。



JLERブログ
「ルーテルとなりびと」
http://lutheran-tonaribi.blogspot.jp/



「来い、急げ、走れ」

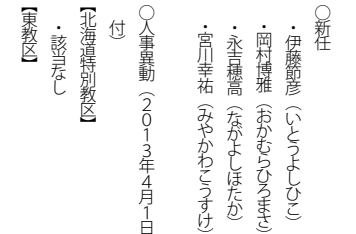
復活オラトリオ(BWV249)
日本ルーテル神学校名誉教授 徳善義和

私自身はもう走れなくなった。しかし少年だった頃は、からだの小さい私は短距離は駄目だったが、中距離くらいは結構速く走ったものだ。若い頃からずっと、働きの日々は走り通したというのが実感である。書斎に静かに座って思索に沈潜する神学者のイメージはなかった。いささかながら「馳せ場を走り通す」という思いが強い。

復活オラトリオと呼ばれる、一七二五年復活日に演奏されたこの「来い、急げ、走れ」は、あの復活の朝、女性たちの知らせを受けて急いで墓に走るペトロとヨハネに向けられて、音楽的にも切迫して「走れ」と迫っている。一曲からなるこの小さなオラトリオは、逃げ去った男の弟子たち二人を叱咤する女の弟子たち二人の叱責から、復活の朝のこれら四人の弟子たちの、失望が喜びに変わる様を、音楽的にも生々生々として再現した曲となっている。葬られたイ



姿は、初代教会の福音宣教の姿である。だから弟子たちはそれから後、今度はこの喜びの知らせを携えて、自ら走り続ける使徒となった。使徒言行録はこうして彼らの走りの記録に他ならないのである。それは今も変わらず教会の福音宣教の姿であり続ける。さあ、私たちも福音宣教へと走って行こう。



私はこの小さなオラトリオを、宣教師、説教者の生き様の一面を確かに鮮やかに指し示して、「走る信仰者、宣教師のオラトリオ」として聴くのである。復活の主を証しするために、牧師だけでなく信徒も信仰の心と姿勢において一年中「師走であるべきなのだろう。その意味で「来い、急げ、走れ」と互いに声を掛け合いたい。そして馳せ場を走り終えた後には、復活の主による私たちの復活の朝が約束されている。

カット：晩年のバッハ肖像

第25回総会期 第四回常議員会報告

第25回総会期の第四回常議員会が、二月二十日から二十二日にかけて市ヶ谷センターにて開催されました。

▼第六次総合の方策の優先課題
「第六次総合の方策の具体的な実現」を図るために、立山忠浩議長は、優先事項を絞って取り組むと基本姿勢を述べられました。

当初は「宗教改革五〇〇年記念事業」「震災支援」「財政問題」と課題領域を挙げただけでしたが、今回、関係委員会報告を受けて、常議員会全体でも

内容に踏み込んだ協議が行われました。

「東日本大震災ルーテル救援」の活動は、派遣牧師である野口牧師を中心とした現地支援活動が被災地域からは有益な支援と認識されている現状を確認して感謝をいたしました。協議では、全教会的な支援をいかに持続的なものとするかという課題と、当初から定めた活動期間である二〇一四年四月以降の在り方についても意見交換がなされました。この議論は、地域という枠組みで考え、東教区の宣教地域と位置付け支援活動に取り組む可能性があるか、具体的な課題検討につき、対策本部、東教区間で調整する

方向となりました。また、被災地での取り組みに並行して、予想される災害に際してどのようにならば、社会に仕えることができるのか？(ティアコリア活動)につき、各教会が具体的な形を打ち出す期待が示されました。

二〇一二年度収支決算報告と二〇一三年度予算協議では、各教会の財政力の大幅な減少が予想される認識が共有されました。現在土地建物資金に関する制度凍結時期であり、先延ばしはできない教会資産の老朽化に対する計画申請も複数、承認されました。宣教を推進するために

小手先でなく、現実から目を離さず、総合的な協議をして行く必要性を確認しながら、財務関連報告が承認されました。

宗教改革五〇〇年記念事業では、本事業の目指す狙いについて協議がなされました。「過去云に学び、今日を問い、明日に踏み出す」構想のもと、「宗教改革の歴史・精神に学び、現代社会の現実を見つめ、宣教の目標を実現するため」と骨格がまとまりました。

これまでに関係各委員会事前協議が進められてきていた出版事業や他教団との合同礼拝等々を含め、いよいよ常議員会

の下におかれる「宗教改革五〇〇周年記念事業拡大委員会」で全体実施計画が取りまとめられ、順次、各教区、各委員会、各教会とのつながりが調整されて行く工程の確認がなされました。

▼人事事項
二〇一三年度の人事は左欄に記しました。4名の新任教師が任命を受け、宣教師、出向教師合わせて現職一〇四名の教職が宣教の務めに任じられています。

また、本教会事務局4室長の人事提案も承認されました。

なお常議員会の詳細は、教会宛に送付される議事録をお読みください。

日本福音ルーテル教会 2013年度人事

提議者 人事委員会

敬称略

- 引退 2013年3月31日付
- ・ 田博一
- ・ 渡邊進

○新任

- ・ 伊藤節彦 (いとうふしひこ)
- ・ 岡村博雅 (おかむらひろまさ)
- ・ 永吉穂高 (ながよしほたか)
- ・ 宮川幸祐 (みやかわこうすけ)

○人事異動 2013年4月1日付

- 【北海道特別教区】
- ・ 該元なし
- 【東教区】

松山教会 (※指導牧師 津田浩之)

山田浩己 岡山教会、松山教会、高松教会

水原 一郎 シオウ教会、光延博 修学院教会

秋山仁 富崎教会 (一般用に変更)

池谷孝史 博多教会、福岡西教会

木下理 皇教区、藍屋教会、杉本洋一 熊本教会、王友教

大牟田教会、田主丸教会 (※指導牧師 小泉憲)

月一付付

青田勇 管財室長 (更新) 専任・任期は2015年3月31日迄

▽宣教師 (2013年4月1日付)

エリックロス 東教区付付

東京教会、ターナロス 東教区付付、本郷学生センター (信託教師)、吉村博明 スオミ教会 (信徒宣教師)

▽3プログラム 退任

クリスティーナアイク 九州学院

アリースウィード 九州ルーテル学院

▽牧委協議 (2013年4月1日付)

白鬚義 二日市教会、甘木教会 (更新)

藤浩 沼津教会 (更新)、明比禮代 富士教会 (更新)、横田行 掛川・菊川教会 (更新)

▽牧委協議終了 (2013年3月31日付)

中村圭助 浜松教会

高村敏浩 フィニテルフィア

宮川幸祐 久留米教会

伊藤節彦 新任 広島教会

伊藤節彦 新任 広島教会

「三浦謙先生を追悼する」

江口再起

2月24日、三浦謙先生が天に召された。牧師として三原、修学院、八王子、小石川、鶴ヶ谷の各教会で働かれた。またルター研究者として「教会法に見るカト

リックとルター派領袖教会等の論文もある。67歳、早すぎると思う。3月2日、市川教会での葬儀の際、友人として思い出を語ったが、そのことを書いておき



たい。

三浦先生と私には共通点があった。三代目の牧師、ドイツ留学、東京近郊での開拓伝道、ルーテル神大の講師、ルター研究所の所員等々。そして教会行政の一翼を共に担った。盟友である。若かった二人は、教会やルターのことをよく語り合った。委員会などがあると、始まる前に喫茶店で二時間、委員会でも二人はよくしゃべり、そして終わっても喫茶店でまた二時間、帰宅して

期待と失望...。とは言え三浦先生と私とは、性格、考え、行動パターン、すべてが逆。しかし不思議に結論は一致し、本当に気が合った。亡くなられて、しみじみ思うことが三つある。一つは、信仰や生き方に無理ないじけたところがなかった。結局すべてに肯定的だった。すばらしいことだ。二つ目は、教会の伝道方針などについて右顧左眡せず大局的な見方ができた。しかも現実的だった。百年事業の進め方や広島プロジェクトには反対論を唱えた、

大方の支持は得られなかったが。そして三つ目に思うことは、これは私的なことだが、先生が亡くなられて私の最後の楽しみが無くなったということである。二人が定年を迎えたら、また昔のようにしょっちゅう会って語り合いたかった。ルーテル教会の現状を共に憂い、自分たちのことは棚に上げて先輩や後輩の牧師の問題点を指摘し、昔は良かったと自画自賛し合う。これが最後の楽しみだったのだ。しかし、その友はもういない。

「気骨のある人・重富牧師を見送る淋しさ」

九州学院 長岡立一郎

昨年11月下旬猛吹雪の中、恵み野教会牧師館に重富牧師を旧友と訪ねた。前日の日曜日礼拝を終え、午後から体調が思わしくなく、食欲もない

と静かに語っていた姿を思い出す。それが最後の語りであり、お別れの時となっていました。今年の6月、肺がんであることが判明して以来、彼



は覚悟を決めて、最期の人生のしめくくりを穏やかに過ごしたいと語っていた。パツパツやモーツァルトの音楽を好んで聞き、この地上での歩みが途上であり、やがて行きつくであろう主のみ国へ旅立つことを静かに待っていたのである。

彼の牧師生活は最初の時期から困難と挫折、戦いの連続であった。その困難と挫折は、教会或いは一神学する者として「時代」が抱える課題に、いかに誠実に応えることができるかという問題意識から生まれたものであった。

そして、彼の神学的思考に一貫していたものは、社会や教会の背後にある本質的なもの、つまり神の創造と救済の働きを研ぎ澄ました眼差しで見つめ続けることであった。その内面的な取り組みが日常的な所作にも現

彼との出会いは、今から48年前に遡る。重富牧師が熊本大学を卒業し、鷺宮の日本ルーテル神学校に編入学してきた頃である。私は彼より3級下の学生であり、鷺宮時代の神学生時代を共に謳歌した者同士である。

先んじて天に召された大切な洋子夫人の下に旅立ち、主のみ国で語り合っているに違いない。主の平安をお祈りしつつ。

SAYONARA J3

3年間の九州学院 九州ルーテル学院での英語教育の働きを終えてアメリカに帰られる3人のJ3信徒(宣教師)からのメッセージ!



Allysion Bedford



Ally Streed



Christine Eige

この三年間の経験は私を変えました。九州ルーテル学院の学生と先生方を決して忘れません。大江教会の会衆はやさしいかたがたです。皆さんキリスト教徒としてどう生活するべきか教えて下さいませ。私はアメリカでは国際広報活動の仕事が大好きです。この三年間は幸せになりました。アリソン・ベフォード

子供の時から、日本に来るのが私の夢でした。神様はこの夢を使いたいと思つて、私を日本に送って下さいました。でも私の夢より、この経験とこの人々のほうがいいですよ。本当に感謝します。私はみなさんをつつまでも覚えていきますよ。この二年間、本当にありがとうございました。アリー・スツリード

日本で過ごした2年半は、楽しく充実した毎日でした。私にとつて日本は特別な場所になりました。池袋教会、神水教会、熊本教会のみなさん。親切にして頂き、本当にありがとうございました。また、2年間過ごした九州学院では、多くの先生方と一緒に仕事ができて、とても光栄でした。日本で出会った全ての人達に心から感謝します。クリスティン・アイグ

公 告

この度左記の行為を致しますので、宗教法人法第二十三条の規定に基づき公告致します。

二〇一三年四月十五日

宗教法人日本福音ルーテル教会

代表役員 立山中密

信徒利害関係人 各位

記

大江教会牧師館用地一部売却

所在 熊本市中央区大江四丁目

地番 21番11(分筆予定)

地目 宅地

地積 181.92㎡

(実測面積301.05㎡の一部)

土地売却のために既取の牧師館(建坪

84.52㎡)を取り壊すこととする。

理由 牧師館建築資金のための売却。

以上